

事件 file004 ブラッディ・ナンバー連続殺人事件

登場人物

●被害者

Y：2年A組。目立たず地味過ぎず、それでいて整った顔立ちやお淑やかな性格から密かなファンが多い。

Z：26歳。男性教諭。2年A組の担任。Y死亡の数日後に遺体で発見された。女子人気非常に高かったものの、女性慣れした対応からか生前より婚約者がいるという噂が流れていた。担当科目は数学。

●容疑者

X：あなた。2年A組。被害者とは双方共に深い関わりは無い。

小林美希^{こばやし みき}：2年B組。Yとは仲が良く、唯奈と三人で一緒にいるところをほかの学生から度々目撃されている。リーダー的な立ち位置だった。

斎藤唯奈^{さいとう ゆいな}：2年B組。Yとは仲が良く、グループのまとめ役。Y死亡時、美希と共に遺体の第一発見者となる。

佐野凛花^{さの りんか}：28歳。女性養護教諭。「保健室の天使」として主に体育会系の男子学生に人気だった。Z死亡後にZと婚約していたことが発覚。

事件概要

○月×日(月)。16時05分。本校舎2階、2年A組の教室でYが死亡している現場を小林美希、斎藤唯奈によって発見される。

死因は胸部の刺し傷による失血死。傷口の程度からナイフのようなもので刺されたものと推察されるも、現場から凶器は見つからなかった。

遺体は床にうつ伏せで倒れており、付近には自らの血液で書いたと思われる「SL」の文字が。また、遺体の手元には所有者不明の指輪が落ちており、内側には「48」と彫られていた。

死亡時刻は終業後の15時30分から遺体が発見された16時05分の間。

終業前の SHR には確実に出席していたとクラスメイトによる複数の証言が上がっていることから、それ以前における生存は確認済み。

遺体周辺の机や椅子は大きく乱れており、誰かと争ったような形跡があった。

警察はこれを殺人事件と見て捜査を開始。学園は一時閉鎖され、学生は当面の間、敷地内への無許可の出入りが禁止された。

Y の遺体発見から 3 日後の木曜日。14 時 30 分。この日は 2 年 A 組の学生を対象に、警察による個別の事情聴取が行われており、X もこの時間に登校していた。

会場に設定されていた本校舎 1 階の 1 年 C 組教室へと向かうため廊下を歩く最中、校舎の裏門側に面した窓の外に倒れている人影を見つける。

同日 14 時 35 分。裏口経由で回り込むと、そこには大量の血を流して意識を失っている様子の Z の姿が。X は何度か Z の名前を呼びかけるも応答が無いのを受け、助けを呼びに行こうとしたところを駆け付けた警察官に見つかり、身柄を拘束された。

死因は複数の刺し傷による失血死。犯行現場には凶器と見られるナイフが落ちており、捜査の結果 Y,Z 双方の犯行に使われた物と判明。警察はこれを連続殺人事件と見て捜査を再開。

死亡推定時刻は 12 時 30 分から 14 時 30 分までの間。

争った形跡があり、Y の事件と同様に血文字で書かれた「SL」が地面に遺されていたものの、それ以外に手がかりとなりそうな物は発見されなかった。

最終的に Z の遺体の第一発見者であり、事件当時のアリバイがなかった X に連続殺人の容疑がかけられた。

この事件の真犯人と、殺人のトリックを暴け。

容疑者の特徴と事件当日の行動

●小林美希

- ・活発な性格で、Y、唯奈の3人グループ内ではリーダー的立ち位置。
 - ・正義感が強く、女子学生に対して軽薄な態度を取っていたZを目の敵にしていた。
 - ・明るい性格からか、Yや唯奈以外にも友達が多い。
 - ・帰宅部。大学生の恋人がいる。
-
- ・Yの遺体が発見された当日、Yと共に下校するため唯奈と二人で正門前に待機していた。これは日頃から3人の中で習慣となっている行動であり、この日も特別示し合わせているものではなかった。
 - ・正門前にいた時間は終業直後の15時35分からYを探しに向かう16時00分まで。その間、唯奈と共に待つ姿を帰宅途中の学生らに断続的に目撃されている。
 - ・16時00分、唯奈の提案により2人でYを探しに行くことに。真っ先にY在籍の2年A組教室へと向かったのは美希の先導によるもの。
 - ・16時05分、Yの遺体を発見する。すぐに助けを呼びに行くよう唯奈へ指示し、美希は現場に残ってYの名前を呼び続けた。
 - ・警察到着時、美希の着ていた制服や手に被害者の血液が付着していたが、それはこのとき、気が動転して遺体やその周りに触れてしまったためと供述。
-
- ・Zの遺体が発見された当日、クラスメイトと映画館で映画を鑑賞していた。
 - ・上映時間は12時30分から14時30分。
 - ・捜査のため学園が閉鎖されている期間中は不要不急の外出を禁止されていたが、拘束力は無く、彼女ら以外にも多くの学生が期間中に外出をしていた。
 - ・映画鑑賞の目的は「家で塞ぎ込んでいても気がおかしくなりそうだったから、何とかして気分を変えたかった」ため。
 - ・最初は唯奈を誘ったものの、断られてしまったため別のクラスメイトに声を掛けたと証言。これについて唯奈も事実を認めている。

- ・鑑賞中、美希が途中で 30~40 分ほど離席していたとクラスメイトが証言。これについて本人は「気が滅入ってしまい、トイレのついでに外の空気を吸いに行った」と供述。
- ・映画館と Z の遺体発見現場とは 6km ほど離れており、自転車を用いても片道に 25 分ほど時間を要する位置にある。

●斎藤唯奈

- ・大人しい性格で、Y、美希の 3 人グループ内ではまとめ役的立ち位置。
- ・周囲に関心を示さず、Z のことはあくまで 1 人の教員としてしか見ていなかった。
- ・あまり感情を表に出さない性格からか、Y や美希以外に友達と呼べる存在はいない。
- ・文芸部(幽霊部員)。交際相手はいない。
- ・Y の遺体が発見された当日、Y と共に下校するため美希と 2 人で正門前に待機していた。
- ・正門前にいた時間は美希と同様。同じく多くの学生に目撃されている。
- ・16 時 00 分、Y に送ったチャットに返信がないことから美希に探しに行くことを提案。チャットの送信時刻は同日 15 時 55 分。
- ・16 時 05 分、Y の遺体を発見する。美希から助けを呼びに行くよう指示され、激しく動揺しつつも真っ先に思い浮かんだ養護教諭(佐野凜花)のもとへ。
- ・このとき佐野教諭へ助けを求めたのは特段彼女と接点があったからというわけではなく、医療従事者として適切な処置を施してくれるはずと考えたためと供述。
- ・Z の遺体が発見された当日、終日在宅していたと証言。
- ・死亡推定時刻の 12 時 30 分から 14 時 30 分は主に自室にいたと供述しており、当日同じく在宅していた専業主婦の母親も同じように証言している。
- ・唯奈は実家暮らしであり、自室は 2 階に位置している。外出するには当日母親がいたりリビングを必ず通らないといけない構造をしており、終日彼女が外出をした様子はなか

ったという。

- ・実際に彼女と母親が顔を合わせたのは 8 時 00 分~8 時 15 分の朝食時、13 時 00 分~13 時 30 分の昼食時、18 時 00 分~18 時 30 分の夕食時、22 時 00 分~23 時 00 分の入浴および寝支度時の計 4 回。いずれも生気の無い表情で非常に心配だったものの、食欲もある様子で他に目立った異変は無かったと母親は証言。

- ・電車通学をしており、所要時間は片道 1 時間。本人が所持している定期券に当日の利用履歴はなく、また最寄り駅の監視カメラにも彼女らしき姿は映っていなかった。

- ・美希から映画に誘われたことについては「大事な親友が殺されたのに、呑気に映画だなんて信じられない」とコメントしている。

●佐野凜花

- ・物静かな性格で、Y とは保健室利用時に業務上の会話をした程度。

- ・職場における Z とはあくまで同僚としての距離感だったと自他ともに証言。

- ・Z との交際、婚約は意図的に隠していた。それは互いに異性の学生から人気が高く、わざわざ公にして業務に何らかの支障を来すリスクを取る必要は無いからと話し合っ
て決めたものであり、自身もそれに納得していたと供述している。

- ・Z から贈られたとされる指輪には内側に「48」と刻印されている。
(Y の遺体発見現場で押収されたものとは別物)

- ・Y の遺体が発見された当日、15 時 00 分から 15 時 30 分まで本校舎 1 階の職員室で会議があり、その後は保健室に戻って事務作業を行っていたと証言。

- ・それから唯奈が助けを求めに来るまで 1 人だったが、消毒液の補充等のため、5 分から 10 分に 1 回程度の頻度で保健委員の学生と顔を合わせていた。このとき彼女の様子に異変はなかったと当該学生は証言している。

- ・最後に保健委員の学生と顔を合わせたのは 16 時 00 分。

- ・保健室は本校舎 1 階の階段付近に位置し、Y の遺体発見現場である 2 年 A 組教室からは階段を挟んでさほど遠くはない。走れば 1 分程度で往復が可能だが、廊下で彼女とすれ違ったなどの証言は無く、同様に遺体発見後の唯奈が保健室へ駆けつけるまで、2 人

と鉢合わせることもなかった。(2人がYを探しに通ったルートと保健室-遺体発見現場の最短ルートは大部分が重複している)

- ・Zの遺体が発見された当日、業務と事情聴取のため学園に出勤していた。
- ・午前から12時30分まで今後の対応等について職員室で会議。Zも参加しているのを多くの教職員が目撃している。
- ・12時30分から13時00分まで保健室で事務作業をしていたと供述。この間、誰とも会わなかったためそれを証言する人物はいない。
- ・13時00分から本校舎1階の1年A組教室へと移動し、警察から事情聴取を受ける。
- ・聴取は90分以上続き、14時37分ごろに裏門付近で騒ぎになっているのを察知し中断、事件発覚を知る。
- ・この際、自身のスマートフォンがZからのチャットを受信していたことに気づいたと後に証言。内容は「殺されるかもしれない」という1文のみで、受信時刻は同日の13時25分。遺体が所持していたスマートフォンにも同内容の発信記録が残っていた。

事件のポイントとヒント

- ・Yの遺体が発見された当日、委員会や文化部などは校舎内で平常通り活動していた。
- ・2つの犯行に使用された凶器のナイフは、捜査の結果Yが両親から護身用に持たされていた彼女の私物であったことが判明している。
- ・Yの遺体を調べたところ、事件発覚時にYは自身のスマートフォンを所持しておらず、家宅を捜索しても見つからなかったことから、何らかのタイミングで何者かに持ち出された可能性が高いと見て警察は捜査している。
- ・学園が閉鎖されている期間中は、警察の出入りのため正門、裏門共に解錠されており、裏門に関してはバリケードテープが張られているのみで見張りも手薄く、隙を突けば誰でも侵入が可能だった。
- ・Zのスマートフォンには、Z死亡当日の13時20分に非通知の着信があり、それに応答した履歴が残っていた。
- ・美希、唯奈の両名は前年度の担任教諭がZだったこともあり、容疑者の3名全員がZの連絡先を把握している。
- ・Z死亡発覚後、警察の取り調べに対し凜花はZと婚約していたことを供述。その際「Zから贈られた」として提出した指輪には「48」と刻印されていたものの、その意味については黙秘している。